

モノクロビーナス
灰心女神

吉原 煙也

すつと落とした雫の中に

僕はいますか？

ゆつたり流るる雲水に

僕は滲んでいきますか？

ポツかり空いた

胸奥きょうくの落し穴

ただ思い

ただ、会いたい。

あの枝垂れ桜が

ふわあり〜 ふあゆらり〜

やわらかい栗毛

はだけた白い首筋

青白い脈管がピクピク

その声・その白い・そのぬくもり

その残存が

コロコロと転がり

どうしようもない程に

どうにもならない

無駄な努力を自分ではない本当の自分が

君を思ふのでございます

すつと通り過ぎた霊柩車に

僕はいますか？

桜下で寝そべる瓦礫ボロに

僕は埋もれていますか？

待たれよ

不再生の遺体のくせに

乗車失格の死骸だと

愚涙ぐるいと威嚇されたかのように

以外に悔しくて・虚しくて・たまらない

遠く、遠く、ずっと遠く。

堅物とぎに押し流され

ふわありー ふあゆらりー

そのひとひら

腐葉土の骨片

鬱蒼と幾重に覆いかぶさる

暗魔幕あんまくを掻き分け

名も無き生氣かぜが刺し

一滴の陽流ひりゅうがはじけ透過する

膨張しムズる肉体

涙腺や耳鼻から粗共がモゾモゾと這い出る

心皮組織を剥がし貪むさぼる

やでも動かされてしまう

何んて強欲で強引なんだ

心骸腐の再生

この身がリメイクされ

治癒修復され

桜下で音夢ねむる君と同化したがるようで

涙単に有り難くてたまらない

強化合成した命の鎖が絡み合い

君の笑顔が開花する

そして、桜散りゆくスターダスト現象を

君と共に食い尽くしたい

すつと落した雫の中に
僕はいますか？

ゆつたり流るる雲水に

僕は滲んでいますか？

ポツかり空いた

胸奥の落し穴

いったい

どれだけ落ちりゃいいんだよ

ふわあり〜 ふあゆらり〜

リアルな偽装空間があるうとなかろうと

当たり前前事なんか存在しない

勝つ手に決めつけた普通という曖昧な基準

屁理屈塊の理想論

そんなものは、もう、いらない。

ただ、無上に愛別離あいべつりく苦すぎて

幾千万もの難遭遇なんそうぐうと君を思ふ

それでも

共に過ごした日々は

共に生きた日々と

感謝の気持ちで

いっぱいでございます

そう言えばあの時

震えていたのは僕の方だったね

ほら、空の無い雲海で青蝶が羽化舞し

凜廻キラリと生起動さいきどうされた萼六枚桜

有り難う、君がいてくれて……

吉原 煙也

日本文学館 第八回ポエム「恋」大賞『コロコロころ』

日本文学館 詩集旅路の果て「提灯草」

著書／詩集 永遠の詩「ポロポロ」

著書／小説 小さな物語「応急処置〜ゼンマイドール〜」

小説「偈化流浪の煙〜グレイライン〜」

上毛新聞・掌編二回掲載、詩多数掲載

「流水の華詩」 e t c

第十回文芸思潮現代詩賞入選・詩銀河掲載「ブラック炭酸水」